
異次元ポスト

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異次元ポスト

【Nコード】

N2497I

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

主人公の少年は帰り道に殺人現場を目撃する。少年の運命やいかに!?

(前書き)

最後にオチが来るショートショートです。

俺は鴻野タクミ。

平凡な中学生だ。部活動の帰り道、尿意を覚え路地裏に入りバツトを置き、用をたしていた。

その時

「助けてくれ！君を会社から追い出したのは上の命令で仕方なく…」
鞆を抱え尻餅をつくサラリーマン。

闇夜に煌めくナイフ。

「言い訳は聞きたくない！！」

革製のジャケットを来た男が素早く動いた。赤い液が空中を舞う。この物語の主人公タクミは物音一つ起てずにその場から逃げ出した。

「まず、救急車に。次は警察！」

電話しながらも、近くにあった二階建てのアパート、その階段を昇り一番奥の部屋にノックした。

「見つけたぞ！！」

振り返るタクミ。そこには先程の凶悪犯がいた。

凶悪犯の両目は紫色と化ていた。

「鴻野タクミだな！抹殺する！」

話しながらも一歩、また一歩と近づいてくる。

「！！。何で名前を知ってるんだ！？警察には連絡してある。おとなしくしたらどうだ？」

タクミは、ひたすらドアを叩き続ける。

「積年の怨み、ここではらす！」

ジャケットの男は距離を一気に詰め、ナイフを振り上げた

「クソ！」

タクミがドアを叩いていた右手がドアに付随しているポストの中に誤って入りこんだ。と同時にそのポストが光った。

「眩しい!!」

強い閃光が犯人の動きを鈍らした。

「!!」

手に伝わる金属感。

「くらえやー!!」 態勢を取り戻した凶悪犯は今度こそはと白刃をタクミ目掛けて振り下ろした

「やけくそだ!」

タクミはそれをポストから抜き取り殺人鬼に向け引き金を引いた。
た。

「グワツ!」

タクミの右肩から鮮血が飛び散る。それに対して余裕の凶悪犯は

「フフツ、どうやら、弾は……」

タクミが左手、人差し指で指し示す部分（血が大量に噴出する左脇腹）を視認する凶悪犯。すると犯人は白目をむいたかとおもつとまへのめりに倒れた。

・

・

「俺は前原巡査だ。なんでお前が狙われ……等と散々追究されたが
答えられることは知れていた。

・

色々あつて解放された俺は、自身の右手の袖の内側に紙切れが挟
まっていることに気付いた。

「…なになに…《君は未来人から狙われている》?。《今回はそっ
ちで使われている武器を送っておいた》……あの拳銃のことか。《
贈り主である私は未来の君だ》…未来?そんなものを信じろつての
かよ……まあ、なんにせよ」

紙切れを握り潰すタクミ。

「将来、わかるってことだな。待ってるよ未来」

そこには、茜色に染まる空。それを見つめるタクミの姿があった。

「おしまい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2497i/>

異次元ポスト

2010年10月17日02時27分発行